

2009 年度事業計画

社団法人 認知症の人と家族の会

1. 「提言」を掲げ、介護保険改善、望む社会保障の姿を求める活動をすすめます。
 - (1) 総会で、09年度改定版として「提言」の修正を行うとともに、今後も「家族の会」が求める社会の姿として掲げ続けます。

併せて、「家族の暮らしがあってこそその介護」の立場から「高福祉応分の負担」の道を主張します。
 - (2) 4月からの要介護認定方法の変更等について推移を見ながら必要な意見をその都度表明するとともに、総会アピールでも「家族の会」の意見を表明するとともに、介護報酬改定と併せ本人と家族への影響について検証します。
 - (3) 上記の検証を進めるため、関西（京都）と関東（埼玉）で08年度開催のシンポジウムと同じシンポジストによる検証の場を設けます。
 - (4) 総会時に社会保障のあり方についての勉強会を開催するとともに分科会で議論します。
2. 介護殺人、介護心中等の痛ましい事件が続いている中で、「家族の会」が40万部作成したリーフレットを活用し、「死なないで！殺さないで！生きよう」とその渦中で苦しんでおられる方々に呼びかけます。
3. 認知症の人が参加できるつどい等の実施
 - (1) 本人ネットワーク事業と連携し、全支部が通常のつどいとともに、「本人が参加するつどい」「本人を中心としたつどい」の開催に努める。
 - (2) 本人ネットワーク支援事業と連動しながら支援者養成研修・「実践報告会」を開催します。
 - (3) 広島県の「陽溜まりの会」の取り組みに学び、各支部においても若年期認知症のつどいや都道府県内でのアピールにつとめる。
 - (4) 会報「本人のためのページ」で本人の声やつどいの内容、実施事例を掲載する。
4. 電話相談の充実

09年度は、各都道府県、政令都市においてコールセンター事業が開始される。支部電話相談にも影響が予想されるが、本年度も助成を継続するとともに、本部・支部電話相談の充実を図る。

 - (1) 08年度に厚生労働省の補助を受けて「家族の会」が作成した「コールセンターマニュアル」を活用して、電話相談員の研修会を7ブロックで開催する。（ブロック会議と併せて開催する。但し、近畿は別途開催）
 - (2) 新規募集を行い、本部電話相談員を増員するとともに、研修・月例会、実地研修等で相談員育成とレベルアップを図る

- (3) 相談記録の整備と内容の分析を図る。
5. 会報・ホームページの内容の充実
- (1) 専門委員会を「会報編集・ホームページ」に改め、課題の明確化を図る。
 - (2) 読みやすい会報としてのいっそうの充実を図る。
 - (3) ホームページは、毎月の更新をこまめに行い、新しい情報の提供に努める。
6. 認知症を知り、地域を作るキャンペーン:本人ネットワーク支援事業(厚生労働省老人保健健康増進等補助金)
- 「家族の会」が実施主体となり、NPO 法人「みんなのサポートセンター」等と協力し事業を実施する。
- (1) 本人の全国交流会を2回(5月、10月)富山で開催する。
 - (2) 7ブロックで本人交流会を開催する。
 - (3) 委員会の設置(委員長は「家族の会」松本理事)
 - (4) ワーキングチームの設置(大橋理事を中心に勝田副代表理事、村上理事)
 - (5) 支援者養成研修・実践報告会の実施(東日本・西日本の2会場で)
 - (6) 研修後報告会・報告書の作成
7. 「家族の会」は公益社団法人への移行を行う。
- (1) 2009年度総会で新公益法人移行を決定する。
そのため、新公益法人の定款案・諸規程案を提案する。
 - (2) 「家族の会」の意思決定方法の変更を行う。そのため、現行定款を変更する。
 - (3) 2009年度総会后、速やかに、公益社団法人の認定を申請する。
8. 専門委員会の取り組み
- (1) 介護保険・社会保障専門委員会
 - 「提言」の具体的提案について精査し、新たな提言をまとめ普及する。
 - 「介護保険シンポジウム」を開催する。
 - 今後の社会保障を考える学習会を開催する。
 - (2) 人権擁護専門委員会
 - 「生きよう」メッセージの活用と普及。
 - ・「生きよう」メッセージを冊子にまとめることを検討する。
 - (3) 調査・研究専門委員会
 - ・介護保険・社会保障専門委員会と合同で介護保険改定に向けた調査を行う。
 - ・若年認知症専門委員会と合同で実践報告会などに取り組む。
 - (4) 広報・啓発専門委員会
 - ・09年度は会報(ホームページ)専門委員会の名称で、他の専門委員会と連携し会報とホームページの内容のいっそうの充実を図る。
 - (5) 若年期認知症専門委員会
 - ・本人ネットワーク支援委員会と合同で本人支援の実践報告会を行います。

- ・若年期認知症本人のつどいとサポーター研修を実施する。

(6) 本人支援専門委員会

- ・本人支援専門委員会の定期的な開催をめざします。
- ・「家族の会」の本人支援専門委員会として独自の取り組みを強めます。

(7) 国際交流専門委員会

- ・国際交流をすすめる体制、財政、活動のあり方について議論を深める。
- ・国際会議、地域会議に組織的で責任ある代表を派遣する。

アジア太平洋地域会議

開催日 2009年11月7~10日

開催地 パキスタン

国際会議

開催日 2010年3月10~13日

開催地 ギリシア

- ・「ADI アルツハイマー病宣言」賛同署名を取り組みます。
- ・ADI情報の提供を日常的に支部に行う体制づくりを進めます。

(8) 30周年事業実行委員会

「家族の会」の30周年を記念する事業の企画について検討を行います。

9. 世界アルツハイマーデーの取り組み(啓発)

啓発活動としての世界アルツハイマーデーは、本年度も「認知症を知るキャンペーン」の一環として実施する。活動には行政、関連団体、企業にも積極的に参加を呼びかけて実施する。

(1) ポスター、リーフレットの作成

(2) 全国一斉街頭活動の実施

行政などに積極的に呼びかけるとともに、本人などの参加協力を求め、全国的な啓発の輪を広げる。昨年の千葉でのメモリーウォークなどの創意的な活動経験を広げる。

実施日 2009年9月20日(日)を中心に開催

(3) 世界アルツハイマーデーの標語を会員より募集する。

(4) 世界アルツハイマーデー記念講演会の開催

本部主催 京都 9月20日 アバンティホ - ル

東京 未定

支部主催講演会の開催

支部で開催する講演会には、本部より会場費・講師代等、開催費用の一部を支援する。

(5) 厚生労働省の後援と厚生労働大臣メッセージを要請

10. 全国研究集会

第25回全国研究集会を佐賀県で開催する。

開催日時 2009年10月25日(日)

会場 佐賀県佐賀市・佐賀市文化会館 中ホール

テーマ 「人ごとではない認知症・安心できる介護保険へ」
09年度改定を検証し、今後を考える

11. 調査・研究(専門委員会の項を参照)

12. 国際交流(専門委員会の項を参照)

13. 日本興亜福祉財団助成交流

(財) 日本興亜福祉財団の助成を受けて、支部主催でリフレッシュ旅行を実施する。

2009年度の実施予定支部 28支部